

授業科目 成人言語障害学Ⅰ

【担当教員名】 渡辺真澄	対象学年	2	対象学科	言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

成人脳損傷者のリハビリテーションにおけるチームアプローチに専門職として参加するため、成人に発声する言語・コミュニケーション障害（失語および右半球損傷・認知症・頭部外傷などによるコミュニケーション障害）の言語症状の特徴や鑑別の方法を理解し、他の専門職との連携のあり方について認識を深める。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 失語症の生い立ちについて説明し、その発展の概略について述べるができる
2. 失語の発生のメカニズムについて、原因疾患と病巣を中心に整理して述べるができる
3. 失語の言語症状を説明するとともに、他の症状と鑑別することができる
4. 失語の分類名を列挙しその特徴を述べるとともに、典型例については他から鑑別して同定できる
5. 失語と鑑別すべきコミュニケーション障害を列挙し、主な鑑別点を説明できる
6. 失語のリハビリテーションの流れについて、チームアプローチの観点から説明できる
7. 失語の予後についてその概略を説明できる

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	失語症の歴史/定義	1	講義、VTR
2	症状・原因疾患・病巣	2	講義
3	鑑別	3	講義
4	予後、失語症者とのコミュニケーション・障害受容と心理・社会的問題	7	講義、VTR
5	評価の流れ・情報の収集・鑑別診断検査	6	講義
6	聴覚的理解・演習	3	講義、演習
7	発話・演習	3	講義、演習
8	読み・書き・演習	3	講義、演習
9	失語症候群-1	4,5	講義、VTR
10	失語症候群-2	4,5	講義、VTR
11	失語症候群-3	4,5	講義、VTR
12	掘り下げ検査-1	3,4	講義、演習
13	掘り下げ検査-2	3,4	講義、演習
14	掘り下げ検査-3	3,4	講義、演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	失語症、	石川祐治 編著	建帛社、	2000年 2400円
	失語症言語治療の基礎、	紺野加奈江	著診断と治療社、	2001年 3500円
参考書	よくわかる失語症と高次脳機能障害、		鹿島晴雄・種村純 編集	永井書店、 2003年 9000円
その他の資料	その他、適宜紹介する プリント			

【評価方法】 出席状況と小テスト、期末試験により評価する。	【履修上の留意点】
----------------------------------	-----------

言語聴覚学科 専門